

No.	いとたけ	演奏者数	演奏時間
-----	-------------	------	------

舞台配置図

客 席

表示記号一覧	一 箏	=17絃	+三絃	0 尺八	≠ 他楽器	*マイク	□ モニター	□ 毛氈	W 屏風
立 奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハインター 枚
座 奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44		編成：1箏							2箏			17絃				
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾				
1 箏	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	A				
2 箏	G	A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E				
17絃	A	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	1	2	3	4	5	6	7
1箏の三 2箏の六 17絃の7が同音（E）																	

尺八	一尺六寸管	口 = E
----	-------	-------

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

作曲年 1971年 委嘱者 一 構成 箏 I・II・十七弦・尺八 時間 8分 出版楽譜 前川出版

解説 題名の“いとたけ”は、いと（箏）とたけ（尺八）の合奏という意味から名付けたもので、この曲の内容を表現する為の表題ではない。箏と尺八の合奏の場合、一般的にみて箏がリズムを、尺八が旋律を受け持つ傾向が多いが、この曲では、その扱いを双方同じ角度から捉えている。従って尺八の場合、やや演奏しにくい点が見られる個所がある様だ。箏については、押手を少なくして合奏を容易にする為、ディアトニック調弦を使用した。1971年作曲。[作曲者] 収録媒体 LP 沢井忠夫作品集・風の歌（TH-9106）